

町の考えを聞く



稲川勝憲議員

町道整備

山高前から礼堂までの整備は

復興計画の中で検討

質問 織笠外山線の山田高校前から礼堂までの1・8キロメートルの延長整備については、平成19年第2回定例会以降2回にわたり山田町総合発展計画に盛り込み、改良整備を図るべきと主張してきました。

町のこれまでの答弁は、改良整備の必要性は十分認識しているが、県代行事業として要望している町道細浦柳沢線を優先すべきであるとの答弁であった。

しかし、去る3月11日の東日本大震災の津波により織笠外山線は避難道路としての位置付けが重要視され、猿神地区には多数の仮設住宅が建設、被災前に比べ交通量が増大し交通事故

も危惧される。

こうしたことから早急に発展計画の見直しを行い、山田高校前から礼堂までの延長整備を図るべきではないか。

沼崎町長 織笠外山線の延長整備については、平成22年第4回定例会において、重要な生活路線であることから整備の必要性は十分認識していると答弁している。今回の東日本大震災においてその必要性について再認識した。復興計画および実施計画の段階で今後検討していく。

質問 町長は毎日この路線を利用して役場へ通っていると思うが感想を示せ。

沼崎町長 7月末に仮設住

災害復旧

織笠橋、新田橋等の復旧は

間もなく着工する

質問 東日本大震災の津波により流失した草木地区へ通じる織笠橋、新田地区へ通じる新田橋の復旧はいっせいで着工し、いつ完成の見込みがあるか。

また、古川橋は欄干が破

宅に入居した。車の接触事故もあり整備の必要性を感じる。



ますます整備の必要性が高まった町道織笠外山線

壊されているが、欄干だけの改修となるか。

老朽化も進んでいるので、この際、橋の全面架け替えをすべきでないか。

沼崎町長 織笠橋、古川橋については、10月下旬に災

害査定を受け、平成24年3月までには完成する見込みである。また、新田橋については、12月上旬に災害査定を受け、25年3月までには完成する見込みである。

なお、古川橋は調査の結果、欄干と橋台の一部だけの被害であり、その復旧だけを考えている。